



# ふれあい通信

## 春暖号

### 令和2年度塩谷南那須地区ふれあい学習推進会議にて地域元気プログラムアレンジ版を作成！



地域元気プログラム

本地区では、地域活動者や学校教職員、行政職員等を委員とした「ふれあい学習推進会議」を開催し、ふれあい学習推進のため協議や情報交換等を行っています。

令和元年度から2年間、「地域元気プログラムの活用」をテーマに、各市町の生涯学習課の職員に加え、コミュニティセンター長、社会教育指導員、オピニオンリーダー、民生児童委員などに家庭教育支援に携わる方々にふれあい学習推進委員として参加していただきました。

昨年度（1年目）は、市町の協力を得て、公民館主催の家庭教育学級や教育委員会主催の地域連携研修会で、地域元気プログラム（左写真）を活用した研修会を実施しました。

本年度は、家庭教育支援を中心とした地域元気プログラムを活用して、「防犯・防災」「男女共同参画」「自治会・子供会」とジャンルを広げ、地域元気プログラムのアレンジ版の作成に取り組みました。



地域元気プログラムには、エイジード、ランキング、事例、クイズなど、いくつかのパターンがあります。それらを組み合わせ、なるべく手間をかけず、活動プログラムを作成しました。

地域課題解決に向けた話し合いやつながりづくりのツールとして役立てることが出来ます。

塩谷南那須教育事務所ホームページ（ふれあい学習課）に掲載しますので、ぜひ御活用ください。

ジャンル：男女共同参画

### 10年後のワーク・ライフ・バランスを考えよう！

自身のワーク・ライフ・バランスを見直し、グループで話し合ったりすることを通して、自分が大切にしたいライフスタイルの有り様について考えることができる。

目安時間	50分	手法	ディスカッション
準備するもの	掲示用ワーク・ライフ・サークル（円グラフ）、項目を書いた短冊、筆記用具、A3ワークシート		
想定する学習機会	男女共同参画講座、家庭教育講座		

ワーク1 現在のワーク・ライフ・バランスについて考える（10分）

ワーク・ライフ・サークルを作ることを通して、自身の生活について振り返る。

①7つの（価値）項目の中から自分の生活に当てはまるものを5つ選択する。  
【家事・子育て・仕事・自分の時間・自己投資・地域の活動・その他】

②選んだ項目の割合（%）を考えながらワーク・ライフ・サークルを作る。  
※掲示用資料を用意したり、ファシリテーターが例示したりすることで、作業の見通しをもつことができるようにする。

ワーク2 グループ内で感想を交流する（15分）

ワーク1で作成したワーク・ライフ・サークルを見せ合いながら感想を交流することで、多様な生活スタイルや価値観があることに気付く。

①グループ内で互いのワークライフバランスを紹介する。  
②感想や質問などを交流する。（各グループ一人ずつ紹介）

※男性と女性の共通点や相違点について話し合うことで、男女のワーク・ライフ・バランスや価値観の違いについて気付くことができるようにする。

ワーク3 10年後のワーク・ライフ・バランスを考える（15分）

10年後のワーク・ライフ・サークルを作り、グループ内で感想を交流する。

①10年後の家族構成をワークシートに記入し項目を選択することで、ワーク1で作成したワーク・ライフ・サークルとの違いに気付くことができるようにする。  
②10年後のワーク・ライフ・バランスを比較し、自分が大切にしていきたいライフスタイルを交流する。

---

### 自治会の新事情～昔はこうだったけど～

今日の自治会の事情を比べ、変わったこと変わらないことがあることに気付くこともとして、各世帯がどのように関わってほしいか考える。

時間	80分	手法	ディスカッション、ラベルワーク
準備するもの	付箋紙、ワークシート、資料（自治会の今昔版）、横道紙		
機会	自治会長や公民館長が集う会議、育成会、PTA研修		

今日の自治会の事情について、意見を出し合う（15分）

率・活動参加の状況を知る。

率を予想してもらった後、資料1を配布し、現状について説明する。

加入率の変化、自治会活動への参加頻度

加入している方は挙手してください。

加入率ほどのくらくか予想してください。

ワークシートに書き出し、グループで話し合う。

自治会への関わり方を考える（13分）

理由・自治会のメリット

挙げたい意見

- 子どもたちのためには、あったほうが良いと思う。
- 共働きが多いので参加できないのは仕方ないと思う。
- いざというときのために、あったほうが良いと思う。

もしも変わらないこととは何か考える（27分）

考えていきたいことを話し合う。

---

### 防犯・防災

#### 地域のみんなで防災・減災！

とに自分たちの地域でどのようなことが必要とき、何をそれぞれでどの立場から考えるべきかを具体的に考え、最後に簡単な提案、提案

時間	70分	手法	事例の紹介、ラベルワーク
機会	自治会、自主防災組織の会議、サロンなど		

本会議や事例から学ぶ（15分）

資料を読む。

事例にあった出来事の一つ一つが自分たちの地域で起きたらどうなるか、想像を膨らませ、自分たちの地域で、どのようなこと、どのようなこと、できるようにしたい。

それぞれの立場から、できること、やってほしい、を話し合う。

自分たちの地域で、どのようなこと、どのようにしたいかを話し合う。

提案・提案書として作成し、発表する。

発表の例を参考にしながら、自分たちの地域で、どのようなこと、どのようにしたいかを話し合う。

作成した提案書や提案書を発表する。

# 「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」について考えてみる

児童・生徒のロールモデルとなる  
「魅力的な大人」との出会いを・・・

社会の加速度的な変化の中、予測困難な未来を生き抜くために「主体的に判断でき」、「他者と協働しながら新たな価値を生み出していく力」を、子どもたちに身に付けさせる必要があると言われています。

新学習指導要領では、子どもたちが、社会とのつながりの中で学びながら、自らの人生や社会をよりよく変えていくことができる」と実感できるような「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。

そのための仕組みが、現在推進している「コミュニティ・スクール」や、「地域学校協働活動」の取組となります。

活動のポイントとして、ロールモデルとなる「魅力的な大人」や「良質な大人」との出会いなどが挙げられます。発達段階にもよりますが、中学生であれば「自分たちの学校をどうしたいのか」「どんなことができるのか」など生徒がコーディネーターやボランティア、教職員と一緒に参画してみることといった取組はどうでしょうか。

地域コーディネーターやボランティアの活動は、子どもたちにとって模範となります。また、多様な人々と共に活動し、身近な社会を自分たちの力でよりよく変えることができるという実体験は、地域の将来を担っていく一員となるきっかけとなるはずですよ。

令和2年度子ども読書活動に関する実態調査結果について

令和3年1月から2月にかけて、県内小学5年生728名、中学2年生655名、高等学校の2年生2,264名を対象に読書活動に関する実態調査を行いました。

調査結果によると、1か月の読書量（朝の読書など学校の読書活動で読んでいる本も含む）は、年齢が上がるにつれて、不読率（1か月の読書量が0冊）の割合が高くなり、特に高校生の不読率は50%を超える高い割合となっています。

また、小学生については、1か月に10冊以上読む多読者の割合が大きくなる一方で不読者の割合も増加傾向にあるとのこと。

令和3年は「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行20周年となります。

読書を通じて豊かな心を培い、未来に向かって広い視野を持った子どもを育てるためにも、子どもが「心に残る一冊の本」と出会えるよう我々大人が働きかけることが大切です。

来月、4月23日は「子ども読書の日」となります。読書のきっかけづくりとなるような準備をしてみたいかがでしょうか。

人権 Web 通信について

人権 Web 通信を御覧になりましたか。  
塩谷南那須教育事務所のホームページ「ふれあい学習課のページ」にある「人権教育」のアイコンをクリックすると御覧になれます。解決に取り組んでいかなければならない「様々な人権問題」をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大により生じている新たな人権問題まで、人権に関する様々な情報を発信しています。

これまで紙媒体で「ふれあい通信」を配付していましたが、次年度からはメール配信となります。ご承知おきください。

本年度も御理解と御協力をいただきありがとうございました。

塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課 TEL : 0287(43)0176 FAX : 0287(43)0535

